

韓国における家畜の起源

日本歴史研究専攻

金憲奭

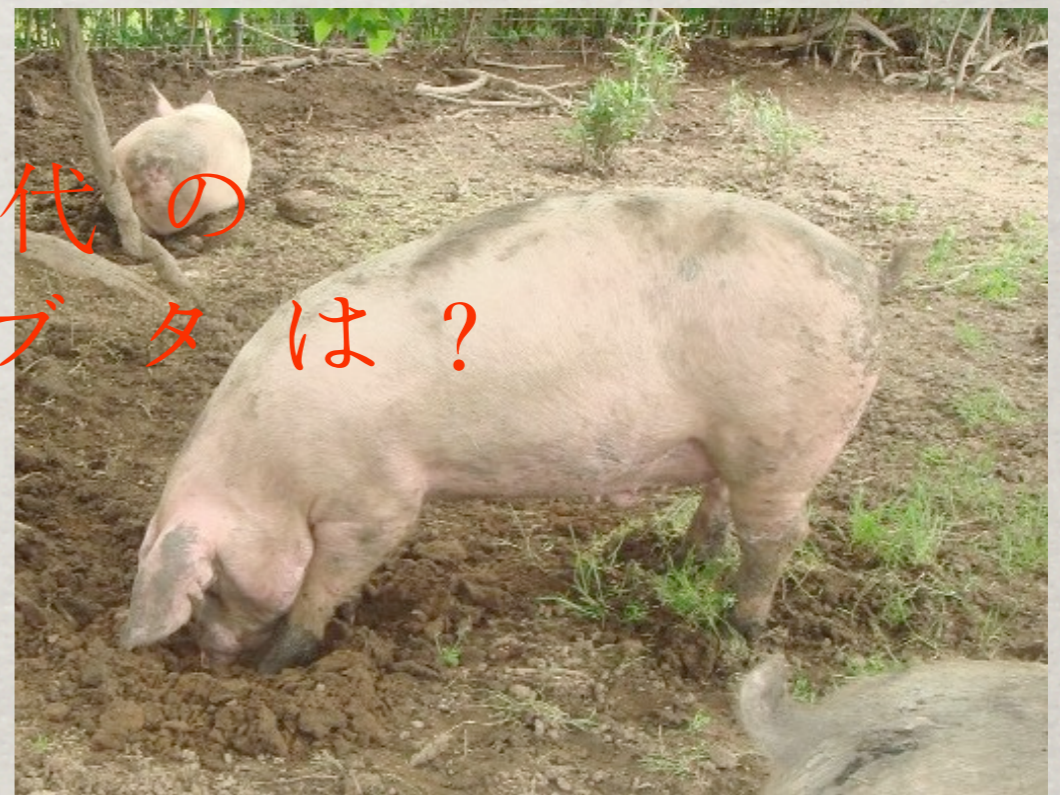
なぜ、韓国の子タカ?

- ✿ 中国の子タカの登場時期
- ✿ 日本の子タカの登場時期が早まる
- ✿ 韓国では動物遺体による子タカが存在が不明

どつちがブタ？ イノシシ？



イノシシ



ブタ

先史・古代の
イノシシとブタは？

家畜ブタの存在

動物考古学による形態

安定同位体分析による食性

炭素14年代測定による年代

家畜化現象とは

- ✻ 野生動物が家畜になる際におきる様々な現象を通称
- ✻ 遺跡から出土する骨を家畜と野生動物に分ける際に把握できる要素

家畜化現象の把握

- ✻ 骨格が小さくなる。
- ✻ 個体の大きさが多様になる。
- ✻ 頭蓋骨の長さが短くなる。
- ✻ 歯の変形が起きる。
- ✻ 骨が肥大化する。
- ✻ 病気が多くなる。
- ✻ 若い個体が増加する。
- ✻ 早熟化する。

本研究の注目点

✿ 大きさの変化

➡ 歯の大きさから推測

✿ 年齢構成の変化

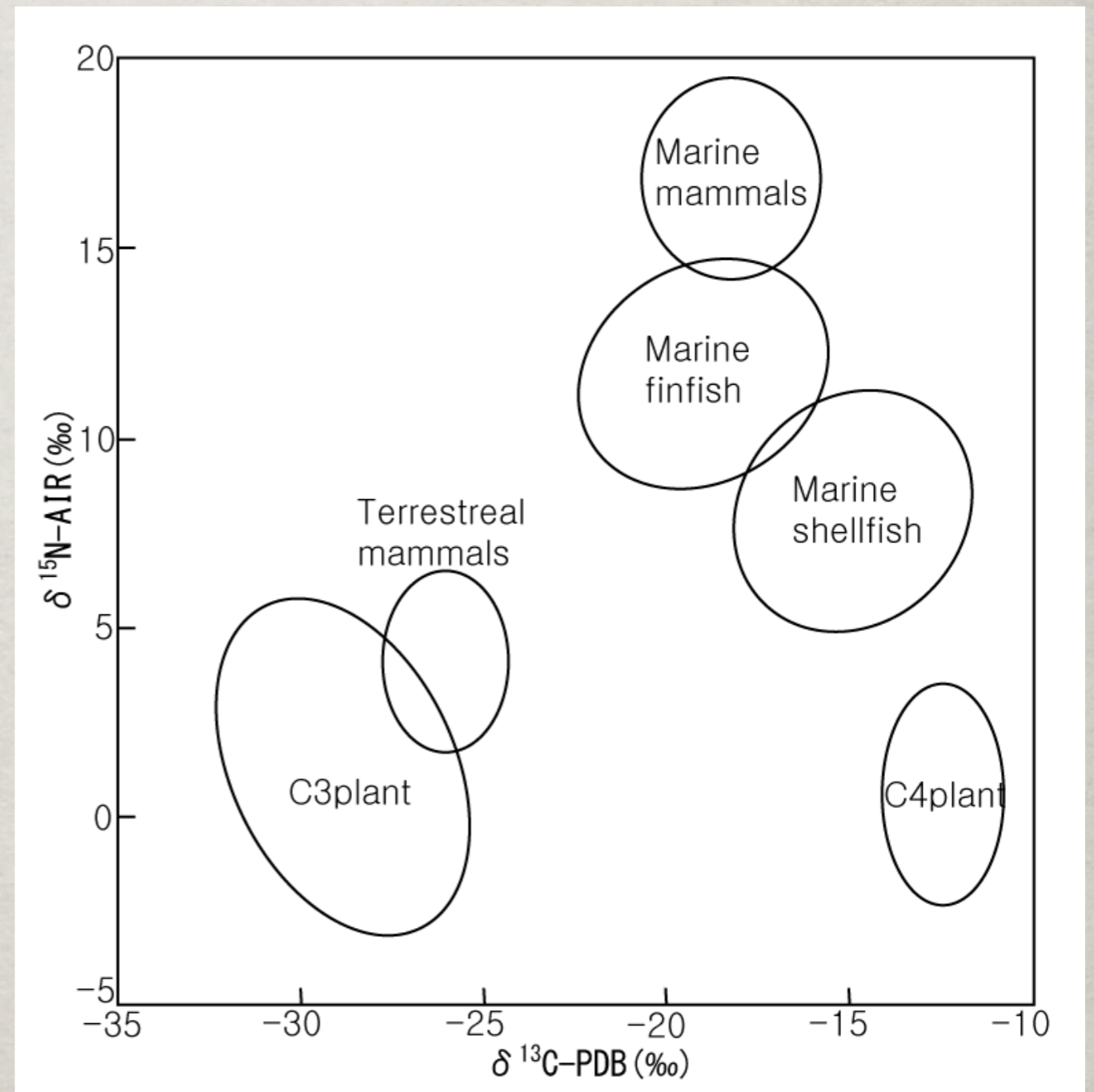
➡ 顎骨からの年齢推定

✿ 食性変化の把握

➡ 炭素・窒素の安定同位体分析

安定同位体分析とは

- ✧ 主にタンパク質の起源を知ることが可能
- ✧ ブタであると、人間に近い、野生動物とは異なる食性を表すことが推測される。



古村遺跡の位置と概要

❁ 紀元後2世紀～紀元後7世紀まで

❁ 低湿地から多くの漆器と木製品、骨が出土

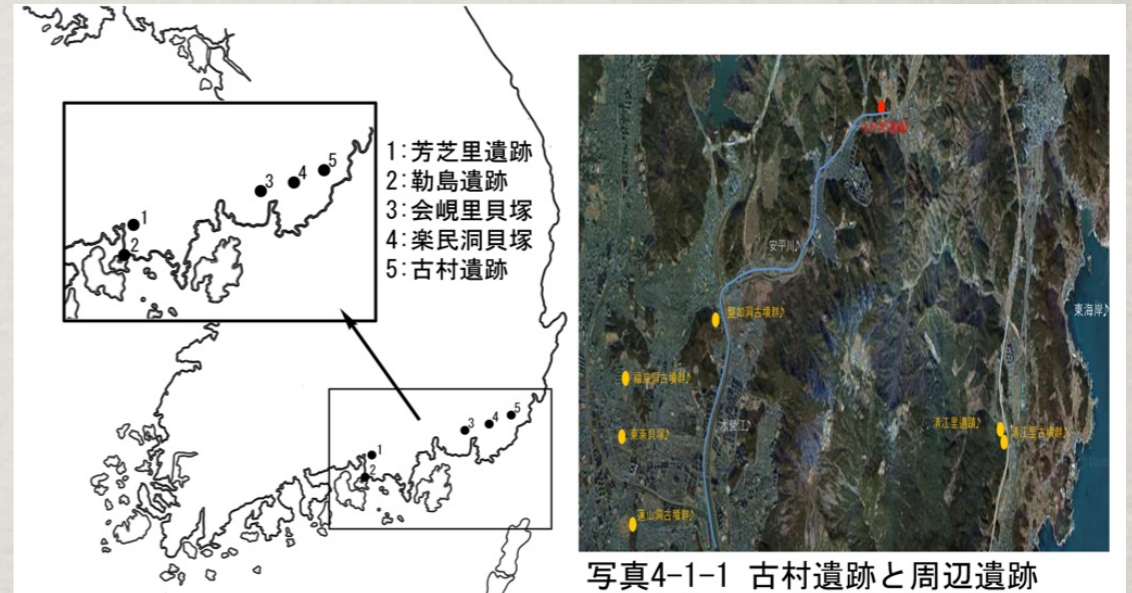


図4-1対象遺跡分布図



古村遺跡の動物遺体

❁ 切断したシカの頭蓋骨

❁ 多くの鹿角が出土

❁ 工人集団



写真4-2-1 シカの切断された頭蓋骨



写真4-2-2 出土したシカの角



写真4-2-3 穴が開いたシカの頭蓋骨



写真4-2-4 壊れたイノシシの頭蓋骨



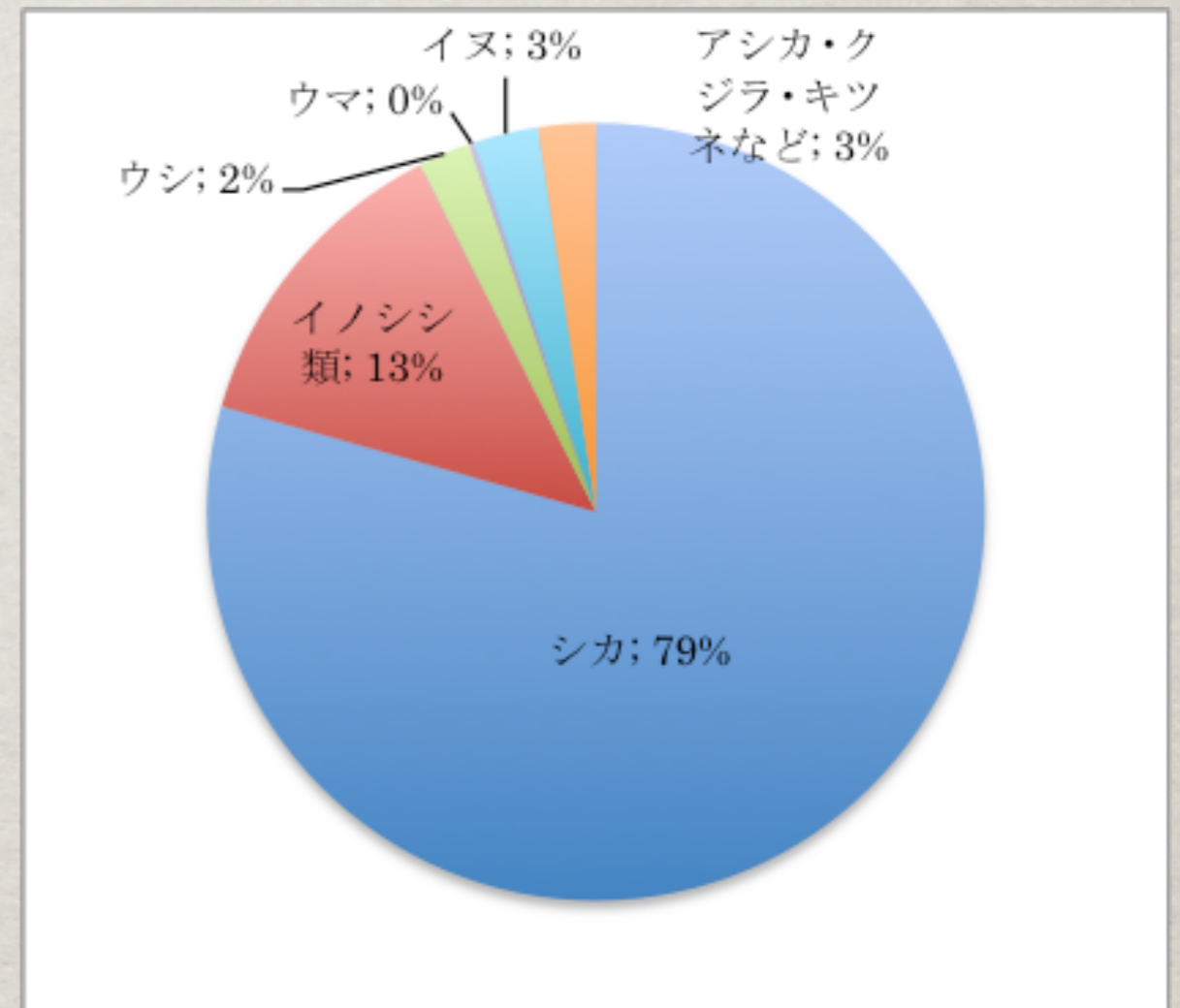
写真4-2-5 切断されたシカの頭蓋骨



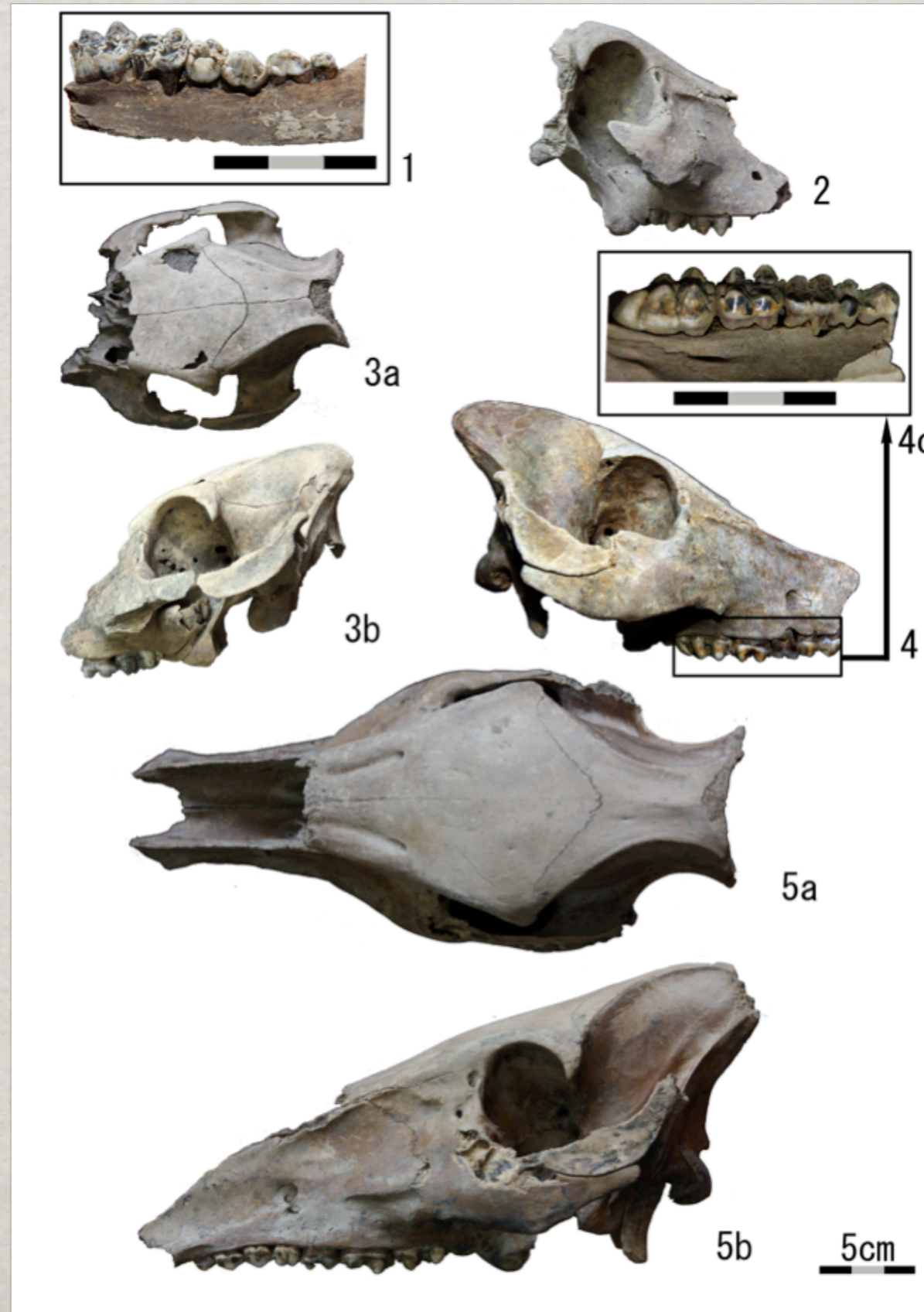
写真4-2-6 出土イノシシ類の顎骨

古村遺跡の動物内容

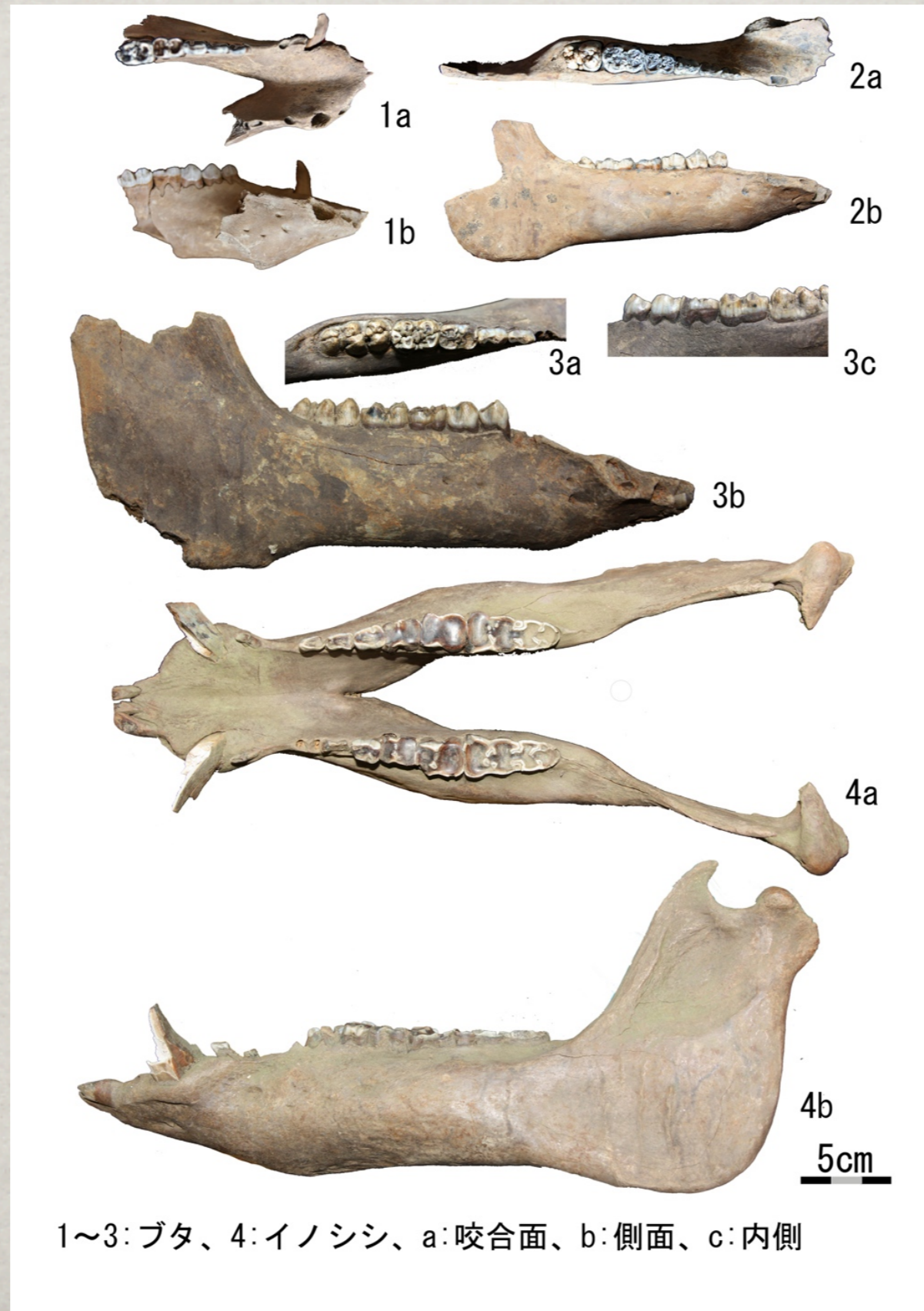
- ※ 動物遺体の大部分はシカ
- ※ 特に、鹿角が多い
- ※ 遺跡の性格と関連



古村遺跡のイノシン類の頭蓋骨

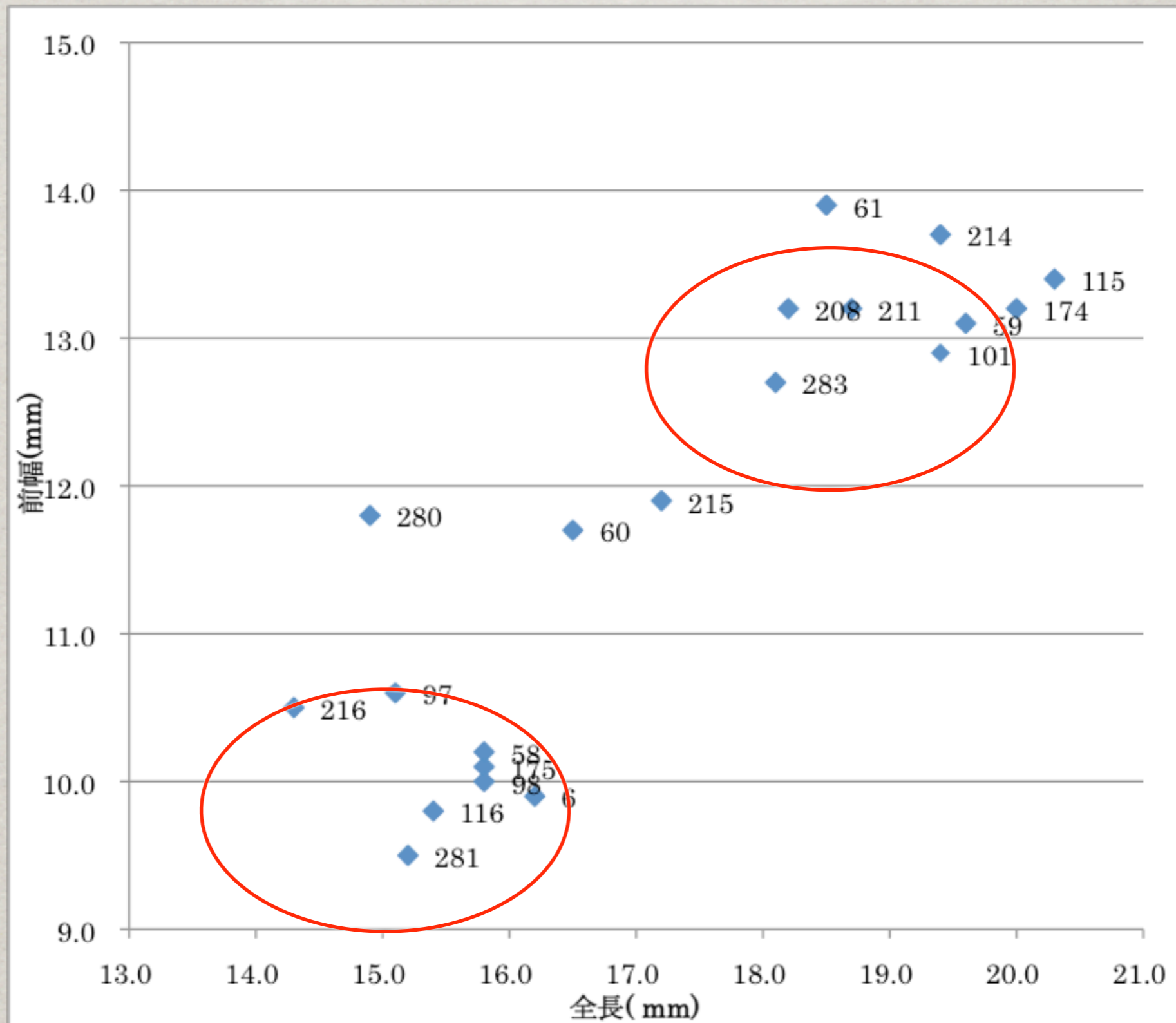


古村遺跡のイノシン類の下顎骨



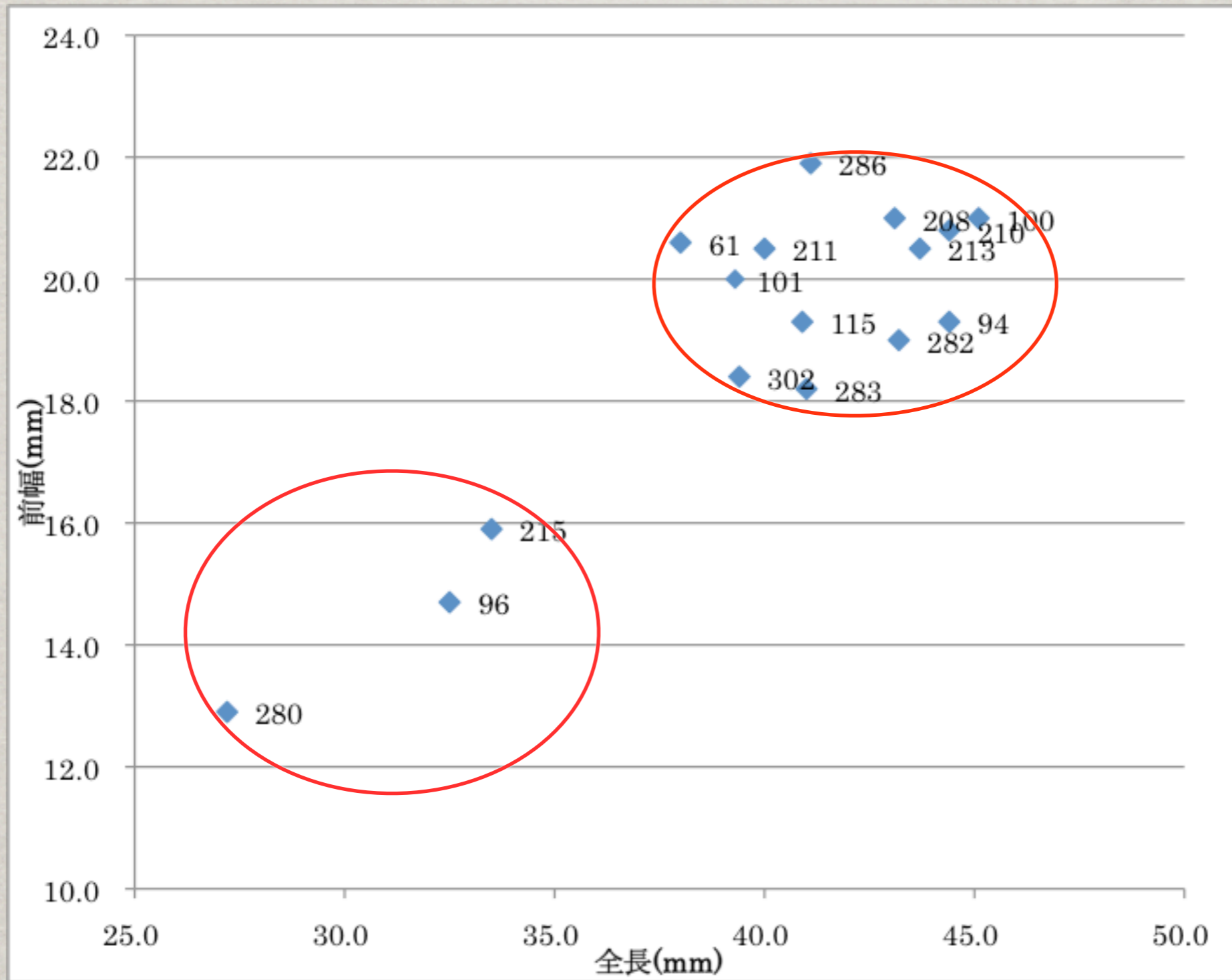
1~3: ブタ、4: イノシシ、a: 咬合面、b: 側面、c: 内側

イノシン類の歯の計測結果



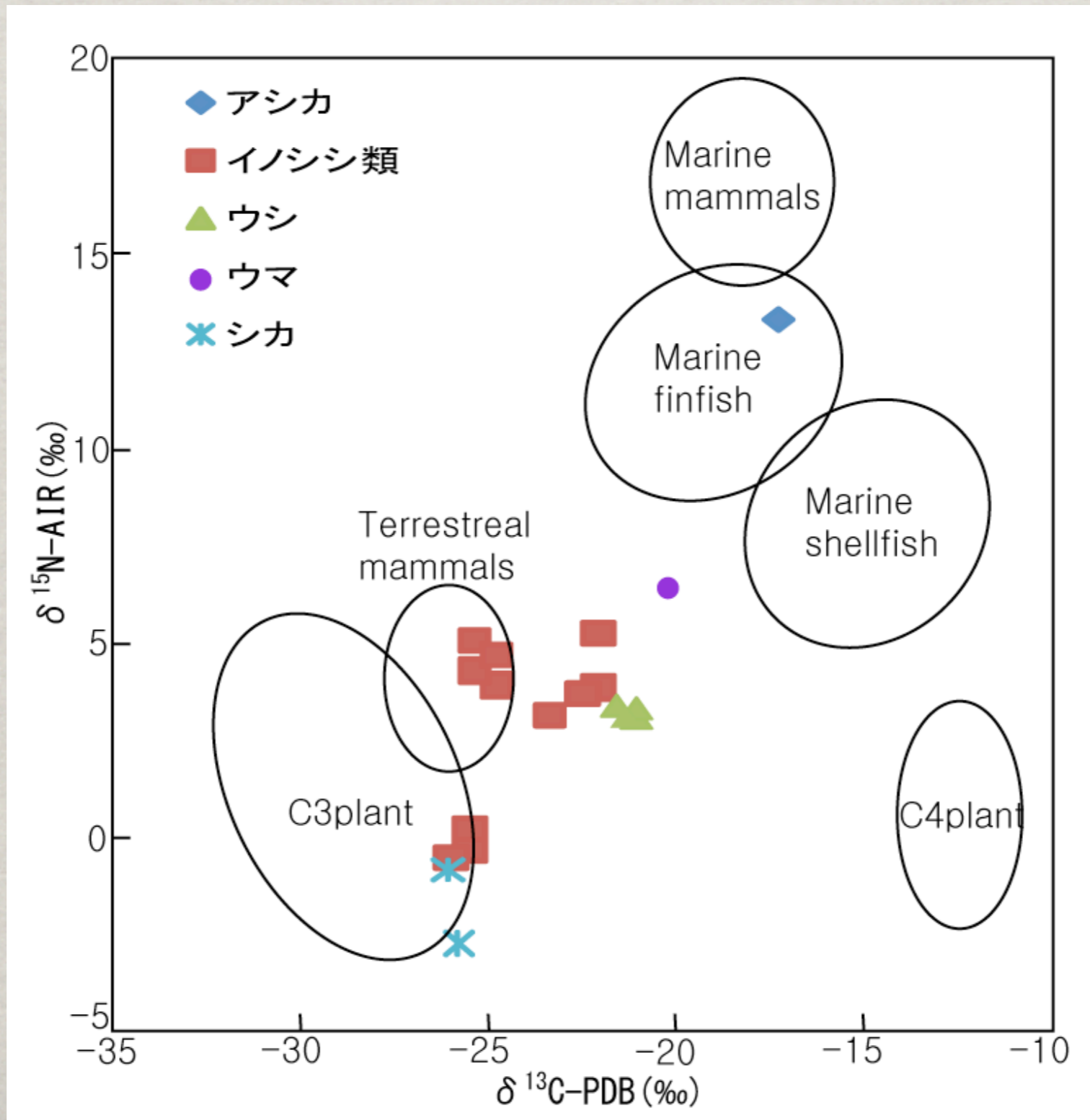
下顎第1後臼歯の計測値分布

イノシン類歯の計測結果

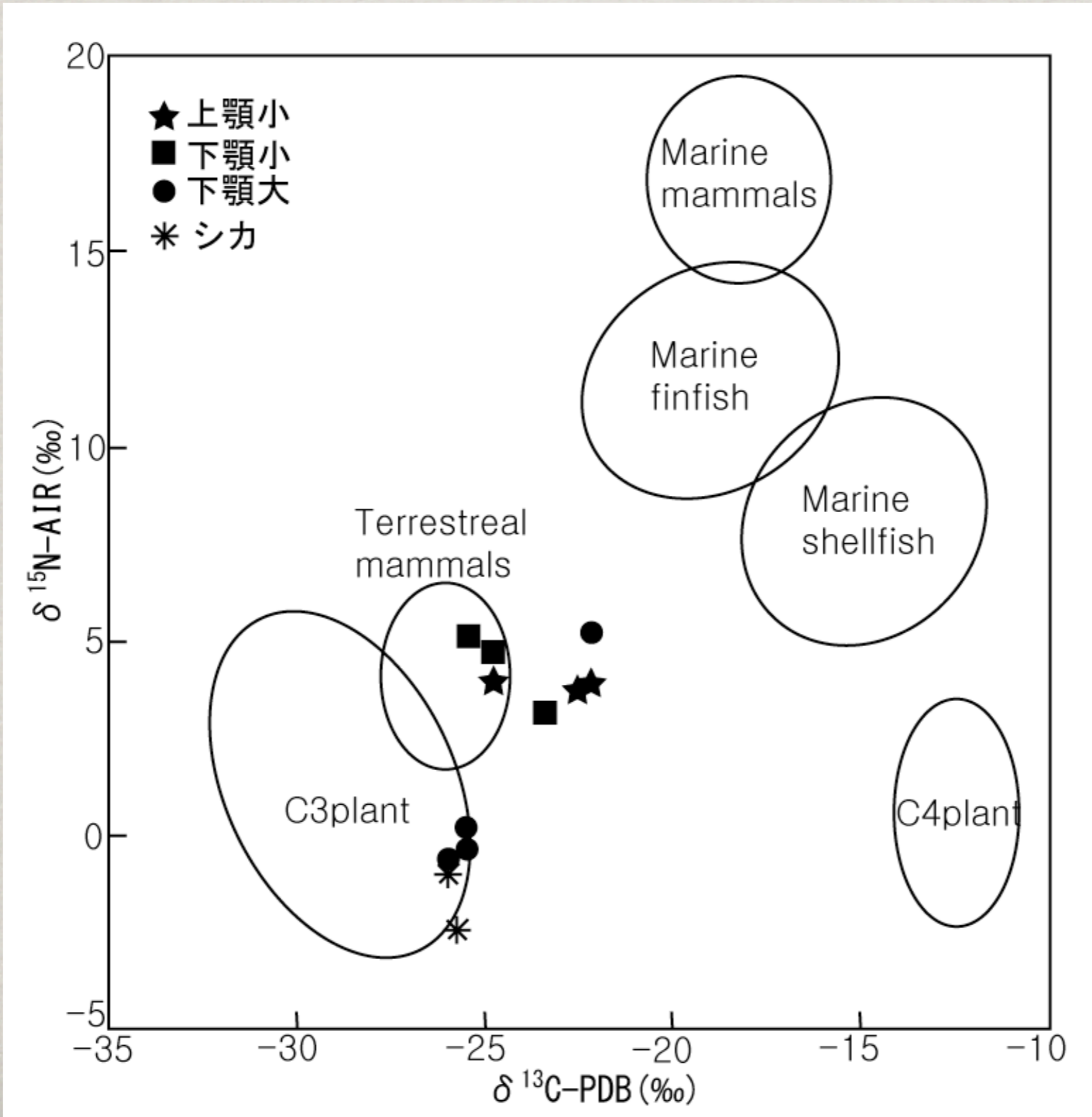


下顎第3後臼歯の全長と前幅

古村遺跡の安定同位体分析結果

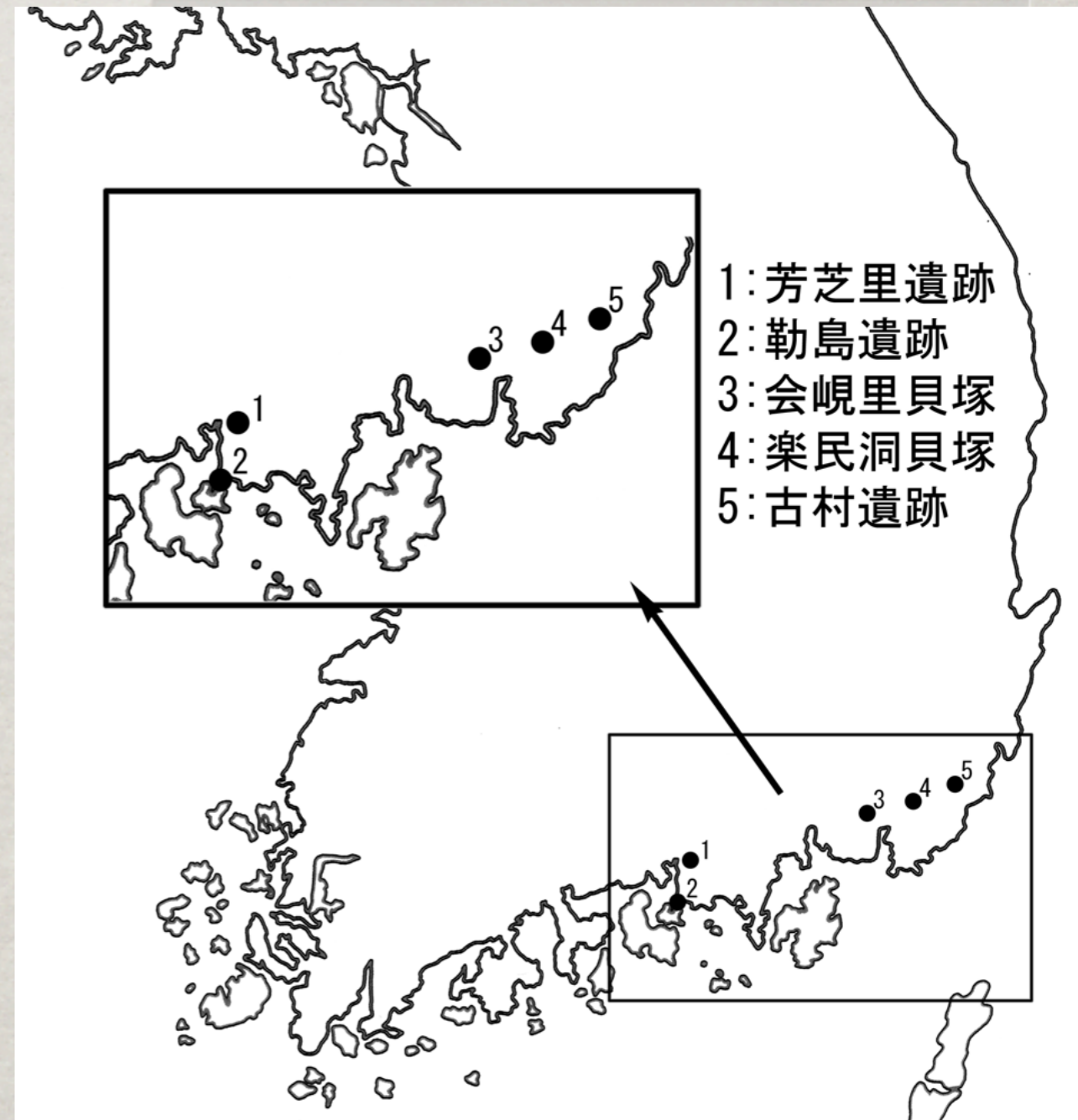


イノシシ類の大きさ別の同位体比分布

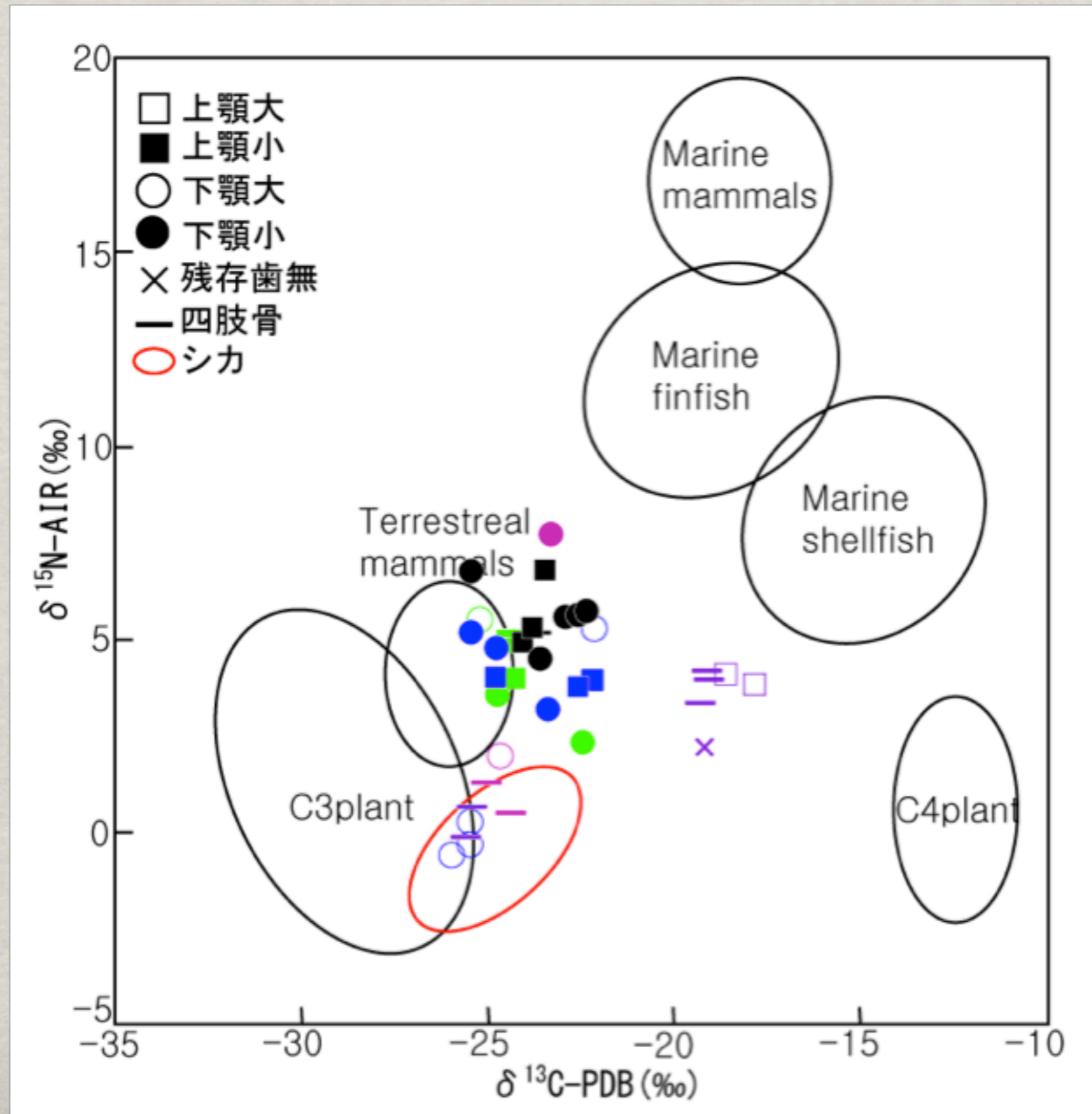


対象遺跡

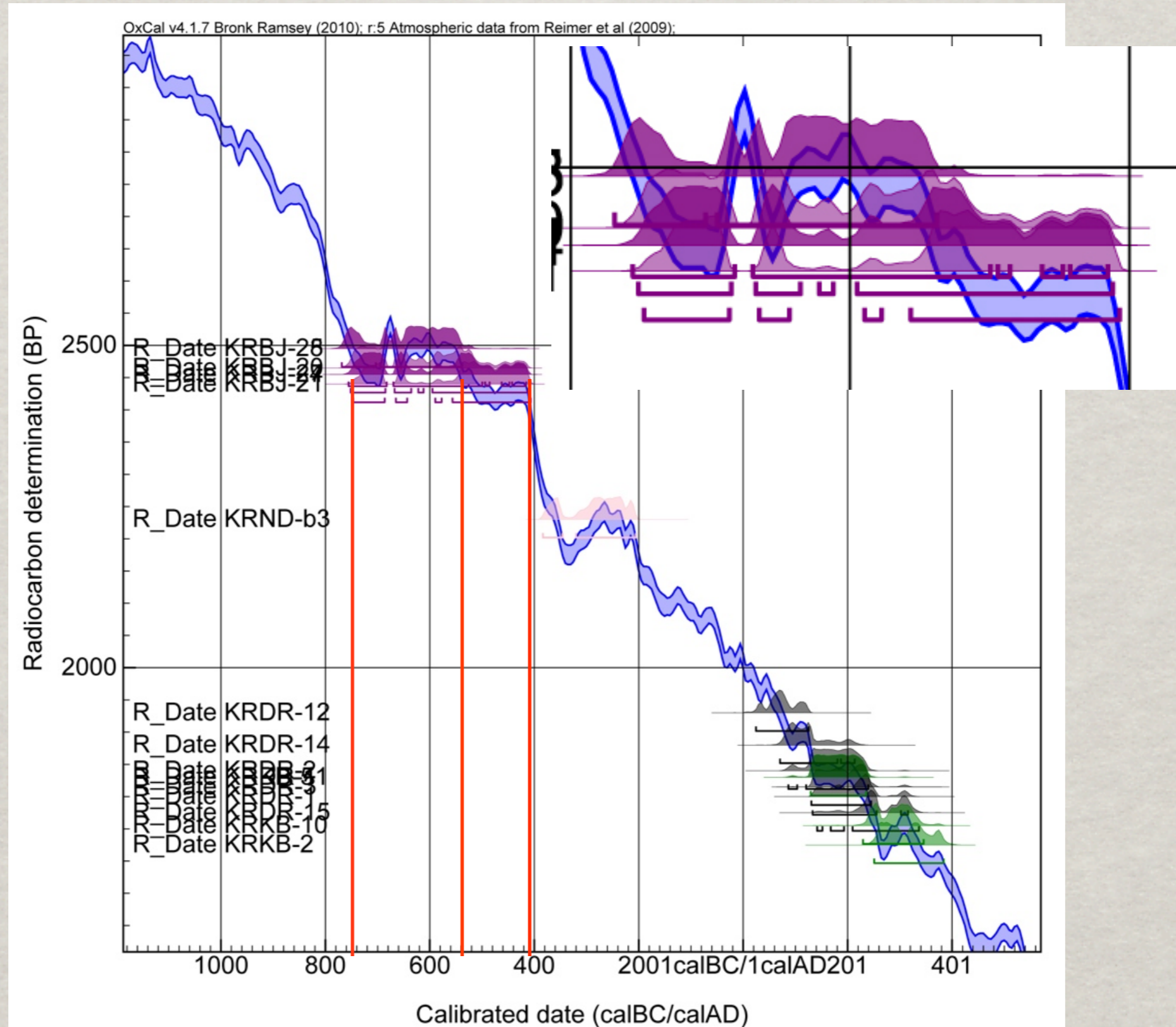
- ✻ 韓半島の南東海岸地域
- ✻ 時期は紀元前7世紀から紀元後7世紀まで
- ✻ 5つの遺跡



韓国でのイノシシの食性と大きさ



炭素14年代によるブタの出現時期



韓国におけるブタ

- ✻ 紀元前 6 世紀からは家畜ブタが存在
- ✻ 周辺状況と家畜の組み合わせから出現時期はさらに遡る可能性がある